



JAC GUNMA

公益社団法人

日本山岳会

群馬支部報

第20号

2023年
1月30日

関東四支部合同懇談会

40人が参加し高崎で開催

講演会・懇親会・山行などで交流

日本山岳会の群馬、茨城、千葉、栃木の関東4支部による懇談会が11月26、27日、高崎市内で開催された。4支部から約40人が参加し、26日は講演会と懇親会、27日は榛名山への記念山行、市内観光の2コースに分かれ、晩秋の上州路を満喫した。

懇談会は各支部持ち回りで開催されるが、コロナ禍の影響によって群馬開催は延期されていた。今回、茨城支部から5人、千葉支部から6人、栃木支部から6人が来県、群馬支部から20人あまりが参加し、楽しく交流した。

初日の26日、高崎市労使会館で行われた講演会は、県林業試験場上席研究員で獣医師の坂庭浩之さんが「シカ・ヤマビル・マダニの話」と題して講演。年々増え続けるシカによる食害などの自然環境への影響について統計データや分布図を示しながら解説した。また、登山者への被害が増えているヤマビルとマダニ対策について、「増加するシカがキャリアーとなって、血を吸うヤマビルやマダニの分布拡大につながっている」と指摘し、市販の虫よけ剤の効用などを紹介した。

続いて、会場を高崎ワシントンホテルプラザに移



和やかに近況報告などが行われた懇親会

して懇親会を開催。主催者を代表して、根井康雄群馬支部長が「2年ぶりに各支部の皆さんとお会いすることができた。日本山岳会では高齢化や会員減などさまざまな課題があるが、同じ山の仲間として新たな夢と目標に向かってともに歩んでいきましょう」と呼びかけ、茨城支部の浅野勝己支部長が乾杯の音頭を取った。各支部による活動報告では登山教室の開催や清掃、講演会活動、古道調査などが紹介された。

アトラクションには、アコーディオン奏者のリンさんが登場し、「岳人の歌」や「雪山讃歌」「谷川小唄」などを演奏し、会場は懐かしいメロディーに包まれた。

来年度の次回4支部懇談会は、栃木支部の主催で開かれる予定。

(関連記事2面)



坂庭上席研究員による講演会



アトラクションに登場したリンさんのアコーディオン演奏

関東四支部懇談会山行コース

快晴のもと、晩秋の
榛名古道を歩く

11月27日、日本山岳会関東四支部懇談会山行で、榛名神社から天神峠を越えて湖畔の宿記念公園までの古道を歩いた。およそ30人が予定した時刻より少し早めに歩き出した。10:00、榛名神社随神門で記念撮影をすませ、参道を進み榛名神社を参拝。残念ながら榛名神社は改修工事のため、その姿を見ることができなかった。ぜひ改修後は、改めて見に来たいと思う。天気は見事なまでの快晴。木々の葉は落ち、岩や滝、山容がいつになくはっきりと姿を現していた。足を進めるたびに、ぱりぱりとささやく落ち葉の音が心地いい。途中小休止を取り楽しみながら進み、ほとんど集団が離れることなく11:40全員無事に天神峠に到着した。

天神峠では、榛名湖を眺めながら一休み。12:00湖畔の宿記念公園到着に合わせたように時報が鳴り響いた。湖畔の宿記念公園では、根井支部長、小池事務局長、小池夫人、鈴木会員が笑顔で出迎えてくれた。ちょうどお腹もすき、楽しみのランチタイム。小池夫人の手作り豚汁には心も温まり全員大喜び。美味しいお弁当を食べ12:30、解散式となった。

参加者全員の協力のお陰で、充実した四支部懇談会山行を終えることができた。



榛名神社随神門での記念撮影

(田中 規王)

関東四支部懇談会観光コース

高崎白衣観音など見学

関東四支部懇談会 2日目の27日、高崎市内観光コースには茨城、栃木支部から3人、群馬支部から3

人が参加し、高崎白衣大観音、だるま工場、少林山達磨寺などを見学した。

まず観音山を訪れた一行は、参道から見上げる高さ約40mの観音様の大きさにびっくり。観音像が建立されたのは1936（昭和11）年で、鉄筋コンクリート造の寿命が近づき、あと10年ほどで取り壊すことが検討されているなどの説明を受けた。また、慈眼院で毎年春と秋の2回公開される「五色龍王襖絵」展を見学。襖に描かれた妙義、榛名、赤城の上毛三山に降り立つ色彩鮮やかな龍の迫力に目を見張った。



白衣観音の前で写真に収まる参加者

だるまが所狭しと並ぶほか、コロナ禍のなかで疫病封じのアマビエを模しただるまなども販売しており、参加者は家族の名前を書き入れてもらっただるまを高崎土産に買い求めている。



大門屋で中田さんの説明を受ける

(萩原 哲)

2023年 新年あいさつ

夢と共感の山岳会を

公益社団法人日本山岳会 群馬支部長 根井 康雄

赤城・長七郎山の頂から初日の出を迎える。筑波山の右から今年初の太陽が関東平野を照らし始める。いつもと同じ朝、だがいつもと違う朝。皆が同じ方向を見て何を思い、何を感じているのだろうか。思いはそれぞれでも、こんなふうに一点を皆で見つめている。「あー、これが山登り、山仲間なんだな」と思う。そんなことを年に一度強く感じるこの特別な時間が好きだ。

日本山岳会群馬支部は10年前の2013年7月に全国32番目の支部として20人が集まって発足。そしてこの10年で会員数も70人へと大きく育ってきた。当初はサロンの集まりで支部山行も行わなかったが、会員の増加とともに、組織も徐々に整備され、活動もゆっくりとしかし着実に活発化してきた。山行も里山から自然観察、名山制覇、雪山指向、海外への夢など、その幅も大きく広がってきた。

まだまだ十分とはいえないまでも、座学から実地まで、登山技術や知識を学ぶ講習会も重ねてきた。また、健康登山塾や、自然観察会などの公募

登山、山フェスタや山の日イベントなどを通して、一般登山者との交流や日本山岳会の他支部、そして岳連や労山などの県内他団体との連携も築いてきた。

このような活動を継続しながら、これからは会員数の拡大以上に、会の体制を整え、充実させていくことが求められていると考える。

重荷は皆で少しずつ分け合って背負い、眺めの良い場所では、汗をぬぐい、それぞれの夢を語り、共感しあいながら、同じ山を見つめる仲間たち。それが山岳会だろうと思う。



2022(令和4年)度尾瀬合宿

毎年恒例となった群馬支部の尾瀬合宿。10月1・2日の1泊2日、尾瀬沼付近を通る山岳古道、尾瀬の穴場笠ヶ岳付近の自然観察、そして至仏山登頂の3コースに分かれて開催。今年も宿泊地は平野顧問の経営するロッジ長蔵。群馬支部以外から千葉支部や友人、総勢27人が参加し澄み切った空のもと、秋の尾瀬を満喫、岳人同士懇親を深めた。

(田中 規王)

秋晴れの尾瀬を満喫

至仏山コース

2022(令和4)年10月1日、至仏山コースに参加した私は、7:00ロッジ長蔵前に到着。7:30予約していたバスに乗り込み、鳩待峠に向かった。鳩待峠は雲一つない晴天。秋の尾瀬を楽しみに来た大勢

のハイカーでにぎわっていた。至仏山コースは、田村、楨、清水、川端、星野、田中の6名。

8:00予定どおり山の鼻に向かって歩き出す。このところ天気が良い日が続いたお陰で木道は乾き滑る心配もなく、すいすい足が進んだ。8:50山の鼻に到着。トイレ休憩などを済ませ、9:05至仏山山頂を目指して歩き出す。色づいたツタウルシ、小さな花や小鳥に出会うたびに、みんなで声を掛け合い楽しみながら登り続けた。正面には、青空に輝く至仏山が我々の登頂を待っているように感じた。樹林



尾瀬ヶ原を眺めながら一休み

帯を抜けると、おきまりの絶景。尾瀬ヶ原の奥にそびえる隠ヶ岳がじっとこちらを見つめている。

11:40至仏山登頂。山頂は居場所がないほどの大にぎわい。少し外れた所で笠ヶ岳方面を眺めながらランチタイムを取り12:30に下山開始。13:00小至仏山で記念撮影。14:45予定どおりに鳩待峠に到着。およそ11km、最高に気持ち良い山行となった。

(田中 規王)

初秋の尾瀬笠ヶ岳周辺自然観察

笠ヶ岳コース

10月1日晴れ。群馬支部事業の尾瀬合宿「初秋の尾瀬笠ヶ岳周辺自然観察」に参加させていただきました。尾瀬湿原を取り巻く高峰の中でも人があまり入らない静かな地域、花の名山とも言われる「笠ヶ岳」(2057m)周辺を散策する企画です。群馬に生まれ尾瀬は子どものころから何回となく訪れていますが、裏尾瀬ともいわれる山域に入るのは初めてなので期待感でいっぱいでした。

7時30分「ロッジ長蔵駐車場(戸倉)」をチャーターバスで出発し、鳩待峠から至仏山方面に向かって登っていきます。天候にも恵まれ、草紅葉を敷きつめた初秋の尾瀬湿原の展望を眼下に歩き「オヤマ沢田代」から分岐した道を「悪沢岳」方面に入ると、人気のない笹に覆われた静かな山道となりました。

なだらかな山稜を上下しながら、笠ヶ岳南面へと続く登山道を途々、木暮尾瀬自然ガイドの解説をいただきながら一味違ったレアな尾瀬を楽しめました。今回は千葉支部の松田さん、坂上さんも同行され会話が絶えない楽しい自然観察トレッキングとなりました。

下山後も「ロッジ長蔵」で仲間たちと楽しい懇親



参加者の集合写真

会、翌日の大清水からの尾瀬沼散策も絶好の天気恵まれ、支部事業の尾瀬合宿を満喫できま

した。ロッジ長蔵の平野顧問には過分なおもてなしをいただき感謝いたします。(加藤 倫子)

ヤナギランの綿毛舞う尾瀬沼

尾瀬沼コース

7月に入会後、初めての尾瀬合宿でした。登山経験がほとんどないため、尾瀬沼コースに参加させていただきました。

当日は雲一つない快晴で、山道の木々に秋の気配を感じつつも三平峠では軽く汗ばむような気持ちのよい登山日和となりました。峠を下りて視界が開けると尾瀬沼越しに燧ヶ岳の雄姿が見え、いつか登るぞ、との思いを強くしました。いつまでも眺めてい



燧ヶ岳の雄姿

られる絶景に後ろ髪を引かれながらも長蔵小屋に向かうと、今度は庭先でヤナギランの綿毛に迎えられまし

た。青空にふわふわと雪のように舞う綿毛と小屋の雰囲気相まって牧歌的な景色が目の前に広がり、感動しきりでした。小屋前で小休止の後、三本カラマツを横目に大江湿原を歩き、平野家代々のお墓と武田久吉先生追慕の碑をお参りました。このヤナギランの丘をはじめ山行の随所で先輩方



長蔵小屋とヤナギラン

のお話をお聞きし、尾瀬の歴史に思いを馳せるとともにここを歩けることのありがたさを痛感しました。下山後は、所用により宿泊ができませんでしたが、ロッジ長蔵までご一緒させていただき、平野顧問にごあいさつをさせていただきました。

日本山岳会に入会し、一般の観光では得られない知見を広げられ、かつ登山技術も学ばせていただくことに感謝しております。今後も安全に楽しい山行が行えるよう、経験を積みたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

(白石 直子)

山に魅せられて

はじめまして、東京都杉並区在住の中場です。本籍は千葉支部ですが北軽井沢に別荘があることから群馬支部特別会員として令和4年7月から在籍させていただいています。

私の思い出の山行は、ふるさと長崎を離れた18歳の時からスタートしました。まずは定番の高尾山に親しんで原点の山になりました。

翌年GWには八ヶ岳デビューの蓼科山に登り、頂上直下で豪雪下のラッセルの洗礼を受けました。

山行で感動的だったのは、南アルプスの鳳凰三山です。薬師岳からの甲府盆地の夜景と富士山のシルエットを飾った真っ赤な満月は幻想的で美し

く忘れられない光景になりました。また、天に突き上げるオベリスクが象徴的な地藏岳に続く稜線歩きも爽快でした。

白馬岳には、白馬尻から大雪溪を160分歩いて頂上を目指し、途中ガレ場に咲くウルップソウやコマクサに癒やされました。杓子岳と白馬鍾ヶ岳を経由してたどり着いた白馬鍾温泉小屋の露天風呂からの雲海を見られたのは想定外の喜びでした。

北は利尻岳から南は屋久島宮之浦岳まで踏破した53座の日本百名山にもそれぞれの喜びと感動がありました。

明日もきっと、どこかの山の頂に立っていたいものです。

(中場 義則)

山行報告

四阿山（ゴンドラコース）

9月11日、支部山行に参加しました。登る山は四阿山。私の住む桐生からだとは距離があるため縁遠い山の一つですが、昨年、ミヤマシロチョウの観察会で湯ノ丸山に登ったときから一度は登ってみたいと思っていました。

午前8時過ぎ、バルコール婦恋の駐車場に着くと、集合時間前なのにすでに全員そろっていました。車で5分もかからない近くのホテルに前泊したのに、余裕がありそうでない感じになってしまいました。ちょっと朝食をゆっくりとりすぎたかもしれません。



山頂駅での記念撮影



山頂直下の岩場

今回は往復ロープウエーを利用するコースを選びました。リーダーは根井支部長で9人のパーティーです。ヒマラヤ登山で有名な八木原さんも一緒です。山頂駅で記念撮影してからスタートしました。針葉樹が発するフィトンチッドを全身に受け、気持ちのいい尾根を歩くこと2時間40分、四阿山の山頂に立つことができました。山

頂直下の岩場もそれほどきつく感じませんでした。ここでバラギ湖のほうから登ってきた田中さんたちと合流、帰りは途中まで一緒に下りました。今年は夏の上高地集中に参加できなかったのが、6月の蓼科山以来の支部山行でしたが、天気にも恵まれて楽しい山歩きができました。

なお、山頂で昼食をとっているときに、いきなりアレルギー反応が出て、喉がはれ上がってしまいましたが、翌日さっそく皮膚科に行ってチェックしてもらった結果、“犯人”はシラカバやダケカンバではないかと診断されました。その後はアレルギーを抑える薬を飲んで山に出かけています。心配していただいたみなさん、その節はありがとうございました。おかげさまで無事下山することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

(木暮 和子)

妙義自然探勝路

11月6日の支部山行「妙義自然探勝路ハイキング」に参加しました。

集合は中ノ嶽神社駐車場。千葉支部の三田ご夫妻の参加をいただき、総勢8人のパーティーになりました。中には車中泊で事前にリハーサル登山をした方もいたようです。

8時集合でしたが、几帳面な方々、7時45分には登山開始となりました。今回は途中の鋼鉄階段が通行止めだったため、東屋休憩を挟んで、本読みの僧から中之嶽神社へ戻るルートになりました。

第一石門・第二石門の通過は鎖の連続でしたが、我らメンバーは無問題でスルーしました。しかし、大砲岩手前まで登った時は、鎖のない岩場通過もあり、ちょっとハラハラする場面もありました。

天気は無風快晴、まさに日本晴れの中、森の恵み



天狗の評定

峰を綺麗に見晴るかすことができました。

ごつごつの岩だらけ登山もいいですが、たまには周りの景色を眺めながら、美味しい食べ物談義をしながらの山行もいいものですね。(田村 和彦)

山と自然を感じた玉原自然観察会

前橋市上川淵公民館のサークル活動がご縁で、今回参加させていただきました。10月5日青空のもと、秋色に染まり始めた玉原湿原入口をスタート。本日のガイド・日本山岳会群馬支部自然保護委員長、木暮幸弘さんのお話をしっかり聞こうと耳を澄まします。

玉原湖を見ながら自然保護のため、堤高を低くしたことを教えてもらいました。湿原の黄金色に輝く草紅葉に気分が上がり、足取りも軽くメンバーの皆様とも和やかに語らいながら木道を進みました。

ブナ平に入り、気持ちの良い木漏れ日が美しく差し込む中を進んでいきました。樹木や木の実、植物、地衣類のことをとても丁寧に分かりやすく解説してくださいました。ハウノキ、ヤマウルシ、トリカブトなど聞いたことのある名前がある中、ほとんどが初めて聞く植物ばかりでした。キノコもたくさん見つけました。



青空のもと、黄金色に輝く玉原湿原



ブナ林で解説に聞き入る

1日をかけて数多くの植物を観察し、生態を学び、山の中の生き物は全て共生しているのだと改めて感じることができました。今後は興味を持って、季節ごとの動植物に触れ、少しずつ勉強していきたいと思いました。

に深呼吸しながらの山行を楽しみました。登り始めは枯葉の降り積もる登山道を登りましたが、徐々に赤や黄色の紅葉真っ盛りの場面に出くわし、遠くに北アルプスやハツ岳連

山登り初心者ですが、毎回感動とパワーを貰える自然に対して、感謝を忘れずマナーを守って登山を楽しみたいと思っています。

(関谷 純子／トレッキングサークルO)

初挑戦 白馬岳

北アルプス北部の人気山、白馬岳(2932m)へ。台風の影響で天気は不安定だったが、好天を祈り決行。メンバーは根井支部長、前田さん、星野さん、中村さん、川端の5人。入門コースの梅池自然園からの往復で梅池自然園～天狗原～乗鞍岳～白馬大池山荘泊～小蓮華山～三国境から白馬岳を目指す。

9月22日11時くもり時々晴れ。梅池高原からゴンドラとロープウェイを乗り継ぎ、高貴な紫色のオオシラビソの「マツボックリ」を眺め、翌日目指す白馬三山を目で追

いながらアプローチ。梅池自然園から足は軽やかに進み天狗原までは順調。しかし、ここからはゴロゴロとした岩ゾーンと急登。降りはじめた雨とガスで視界不良、白馬乗鞍岳のケルンを横目に今宵の宿・白馬大池山荘へと急ぎ、疲れた身体を癒やし翌日に備えた。

翌23日、明け方に雨は止み4時出発、小蓮華山から一面紅葉が始まった長い稜線歩きを楽しんだ。頂上では人力で担いだという有名な強力伝の風景指示盤を見られた(360kgあるらしい)。下りの小蓮華山と雷鳥坂では幸運なことに雷鳥とも出会え、蓄積した疲れも飛んでいった。

来年は白馬岳の名前の由来と言われる「代かき馬」の雪形と、お花畑の時期に行こうと気持ちが高まった。前田さん、根井支部長、お忙しい中、白馬岳行を調整していただきありがとうございました。

(川端 恵子)



白馬大池を見下ろす



足元にはチングルマの綿毛

みちのくの山旅

9月9～11日、川端会員と日本百名山岩木山、八甲田山へ。まず経緯として、JR東日本から発行



岩木山山頂でクーリッシュと
手作りマフィンをいただく



八甲田山でハイ、
ポーズ！

される「大人の休日倶楽部パス」を利用すると東北への新幹線料金がお得だと耳にし、まずは青森から攻めることに。夏合宿の山研で前田会員に話をすると、翌日行かれた高頭祭で青森支部の大久保さんに話を繋いでくれ、岩木山は須々田青森支部長、八甲田山は須々田支部長と大久保さんに案内していただくこととなった。

初日は弘前城を見学。2日目岩木山。嶽温泉登山口を出発し樹林帯の中を2時間登り8合目リフト乗り場に着く。9合目からは視界が広がる。鳥海山を経て岩稜帯を登り登頂。下山後は、嶽きみ（ゆでとうもろこし）を食べ岩木山神社とりんご公園を見学した。

3日目は八甲田山。木道整備のための滑り止め（木留）運びを手伝った。主峰の大岳、ダイナミックな噴火口が見られる井戸岳を登り広大な湿原毛無岳を周回。アオモリトドマツがたくさん生える八甲田、今度はスノーマンスターを見にいきたい。

この2日間、須々田支部長と大久保さんに歓迎していただき、両日の送迎と手作りマフィン、りんご

や珈琲のおもてなしと忘れることのない山行であり、また日本山岳会の繋がりに感激するとともに当会会員であるということに喜びを感じた山旅になった。（星野 弘美）

NEWS

[速報・短信]

ぐんま山フェスタ2022

山の日制定を機に始まった「ぐんま山フェスタ」。コロナ禍で2020年は中止（Web開催）、そして21年は1日だけの縮小開催となっていたが、22年は10月22日（土）・23日（日）の2日間にわたり、高崎市間屋町のビエント高崎エクセルホールで開催された。群馬支部は群馬県山岳連盟、群馬県勤労者山岳連盟とともに共催団体に加わった。

ブースでは、資料配布や書籍販売を中心に、来場者の質問に応え、地元太田で顕彰活動を行っている木暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会の協力で日本山岳会第3代会長・木暮理太郎の資料展示も行った。隣接会場でのイベント（楽市）との相乗効果もあり、2日間で5500人が来場した。

群馬県山岳連盟法人化

群馬支部も所属している群馬県山岳連盟（吉田直人会長）では、法人化と名称変更に向けた準備を進めてきたが、23年2月の設立総会を経て、4月1日にいよいよ法人化の運びとなった。

正式名称は「一般社団法人群馬県山岳・スポーツクライミング連盟」で、略称は今まで通り「群馬岳連」とし、英語表記は「Gunma Mountaineering and Sports Climbing Federation」、略称の英語表記は「GMSCF」となる。

思い出の山

情熱再び東北の山

西田 哲弥

前年に亡くなった友人に線香を上げにいこうと春、友人の望月久君（元日中写真協会会長）と金沢に一緒に行った帰りに、「岩手県の八幡平のアツビ高原の別荘に9月に行っているのだから来ないか」と誘われて9月初めに行った。東北に行くなら山に登ろうと思い、望月君に案内してもらい2014年9月3日、岩手山へ登った。

奥羽山脈で最も高い山（2038m）。馬がへしから、林の中の山道へと入り2合目半で旧道を左にとり、急登のガラバを登り8合目の避難小屋まで、バテバテでたどり着いた。小屋前に清水が導水されており、水を飲み、しばらく休みザックを置き、頂上まで空身で登った。

その後毎年9月から10月にかけて10日間、4～5年別

荘に通い、東北の山を登った。八幡平、秋田駒ヶ岳、早池峰山、岩木山、八甲田山、栗駒山、姫神山、秋田焼山、鳥海山、森吉山、経塚山など。多くの

温泉にも泊まった。乳頭温泉、酸ヶ湯、玉川温泉、嶽温泉、藤七温泉、夏油温泉、十和田湖、田沢湖など、また青森県の太平洋側から日本海鰺ヶ沢まで、ぐるっと周り楽しい時を過ごした。

会社を退職してから、数年は何もせず毎日を過ごす毎日だった。学生時代の山への思いを、思い出させてくれた東北の山登りは、人生終わりに近づく今、楽しい思い出になった。学生時代の山岳部の記憶が薄らい



岩手山山頂にて

群馬の藪山 ⑩

中山 達也

【中垣山（岩）】（1098 m）高崎市倉渕町

2017年5月上旬 2.5万円 浅間隠山

倉渕から二度上峠へ向かう県道54号で鷹ノ巣トンネルを西に出ると、左奥に大きな岩壁が見える。これが中垣山（岩）である。

前回紹介した雨坊主からでも回れるが、今回は三沢川沿いからのアプローチを紹介する。国道406号「権田」信号を左に折れ県道54号に入る。1km程走り三沢川の小さな橋を渡るとすぐ左（西）に市道が分岐する。入口に釣堀「かねと水産」の看板がある。

猪毛の道祖神群を左に見て、入口から2kmあまり走ると左下にかねと水産の施設がある。ここで舗装路は右にカーブして北に向かうが、正面にダートの林道が続く。大峯への林道を左に見て行くとY字路になる。すぐ先にゲートがあるので、このY字路付近の路肩に車を止めた（P）。

右の林道に入り1km程行くと道は大きく左にカーブして、尾根の切通を超える。この尾根が中垣山から東に延びる尾根だが、上部で岩に阻まれる。そのまま林道を進み、切通から1km程先、S字カーブで尾根を回り込む辺りで林道を離れた。尾根には道型のような凹みもあった。

杉林を抜けると岩場になるが、左（南）側に踏み跡がある。この先平凡な尾根になり、やがて雨坊主からの稜線と合流し北に折れ岩稜帯に入る。この辺りが核心部で岩稜の右（東）側をトラバースしていく。いったん杉林のコルに下りて登り返すと中垣山頂に出る。山頂は岩壁の突端で北側は切れ落ち展望が良い。笹掛山から浅間隠山の双耳峰、その左奥に白い肌を残した浅間山が望めた。

帰りは1080m峰から稜線を少し南に下りてみると、石の祠があった。この辺りは信州に抜ける道があったのだろう。1日かけて、大峯、雨坊主、中垣山と1周するのも面白い。



（注）記述は当時の状態です。Web等で最新の情報を確認してください。道標、明瞭な道はありません。地図、コンパス（GPS）は必携です。

事務局だより**【主な活動・事業・イベント】**……………
〈2022年〉

- 尾瀬合宿（10/1 ロッジ長蔵）
- 谷川岳慰霊祭・閉山式（10/2 みなかみ町・土合霊園地）
- 玉原自然観察会（10/15 玉原湿原・高原）
- 木暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会 服部会長来訪（山フェスタ打合せほか）（10/18 前橋市内）
- 支部役員会（10/19 前橋市内）
- 山フェスタ関係者懇談会（県内山岳3団体・全国山の日協議会ほか）（10/21 前橋市内）
- 山フェスタ（10/22・23 ビエント高崎問屋街センター）
- 岐阜支部創立50周年記念式典・祝賀会（10/23・24 高山市）
- 支部座学（10/25 前橋市内（中山講師））
- 県民登山（群馬県山岳連盟）（10/30）
- 木暮理太郎翁牌前祭 中止（11/3）
- 支部報編集会議（11/4）
- 木暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会との意見交換（顕彰活動について）（11/6 太田市内（服部会長・根井ほか））
- 日本山岳会群馬支部例会（11/16 前橋市内・Zoom）
- 関東四支部懇（11/26・27 高崎市労使会館・高崎ワシントンホテルプラザ・榛名山山行と高崎市内観光）
- 晩餐会（12/3 東京・京王プラザホテル）
- 白樺小屋下見（12/11 みなかみ町・谷川温泉）
- 語り継がれる山岳祭会議（12/13 本部主催・Zoom）
- 群馬県山岳団体連絡協議会交流会（12/16 みなかみ町）
- 支部役員会（12/21）
- 安全研修委員会 第1回準備会議（12/25 zoom）

■支部山行（12/27 谷川・白毛門）

〈2023年〉

- 支部山行（1/1 長七郎初日の出）
- 雪上訓練（1/8 北横岳）
- ロープワーク講習会1（1/15 太田市内）
- 群馬支部例会（1/18 Zoom）
- ロープワーク研修2（1/29 太田市内）

【今後の主な予定】……………

- 支部山行（2/18 赤城山黒槍山）
- 一般社団法人群馬県山岳・スポーツ連盟設立総会（2/25 前橋市内）
- 支部山行（3/5 玉原スノーシュー）
- 明寿大学 山の講演会（根井・山の楽しみ方など）（4/10・24 前橋市中央公民館）
- 一般社団法人群馬県山岳・スポーツ連盟設立（4/1）
- 群馬支部通常総会（5/17）

【新入会員】……………

武藤 守 武藤 雅美 白石 智大 浅海 勝
浅海 智子 岡田 晶彦 岡田 理恵

日本山岳会群馬支部報 第20号 2023年1月30日

発行：公益社団法人 日本山岳会群馬支部

〒371-0051 前橋市上細井町1200-7（根井方）

https://shibu.jac1.or.jp/gunma/

発行者：根井 康雄 編集者：小池 千秋・萩原 哲

印刷：上武印刷株式会社